

兵庫県こころのケアセンター 平成21年度実施分に係る
外部評価委員会 業績評価（総合評価）

所 見

- ・本センターは、全国初の「こころのケア」の拠点として、トラウマ・PTSDの専門研究・支援機関として、また、重いストレス障害の治療機関として、多様な取り組みを行っている。さらに、最新のトラウマ治療に関する研究・啓発も同時に展開しており、いわゆる、こころのケアは、身近な人による適切なかかわりから専門的な治療まで含むが、その機能をすべて果たしており、高く評価できる。
- ・また、土曜開庁や消防士を対象とした新規研修の実施、被災地への支援チーム派遣など、総じて「地域のニーズに応えたい」とする姿勢が一貫して伺われる。トラウマ・PTSDの専門機関として県内・県外でも市民の認識が高まりつつあることは喜ばしいことである。
- ・しかしながら、このような価値の高い活動を継続し、さらに期待に応えていくためには、今の課題と思われる医師・専門家スタッフの負担の解消とより多くのトラウマ治療のニーズへの対応である。
- ・このため、本センターの設置者である兵庫県から、一層の人的・財政的な支援を得る努力を払うことが必要である。
- ・さらに、わが国における唯一のトラウマ・PTSDに関する総合研修・研究センターという全国規模の施設であるので、県に加えて国からの予算を導入することはできないのかと思う。そのためにも、本センターの事業を積極的にアピールしていく必要があると思う。
- ・第一は、本センターが宿泊施設を持つ総合研修・研究機関であり、県内のみならず全国規模で行われることを広報していく必要がある。事件や災害は国内・外に及んでいて、限られたスタッフが出かけていくわけであるが、地方の災害地域などにある大学や研究機関にサテライトを作り、そことの連携を密にして宿泊研修をしていくようにすることが必要ではないかと思う。
- ・第二は、トラウマ・PTSDに関する一般的・基礎的研修や広報活動を行う段階から、専門家や現場の人びとへコンサルテーションやスーパービジョンを含めた中級・上級研修を行う段階へと変化させなければならないと思われる。
- ・第三は、本センターの役割について、被災者・被害者・地域復興を支援する役割と、それらの支援を研究に深化させる役割を担っていると思う。そこで、災害や事件が発生した現場で、本センターのスタッフは専門家としてステークホルダーの一役を担うと共に、実践と研究を繋げていくオーガナイザーになることが必要と思われる。そのようにして、実践研究としての実績を作っていくことが、広く専門家や非専門家に貢献することになり、それが被害者・被災者を救済することになると思う。
- ・一方、予算や配置人員の増加がニーズに応じて期待できない場合は、限られたリソースを教育啓発機能、研究調査機能、相談治療機能のなかで今後どのようにバランスをとって展開していくかを検討していく必要性が出てくると考えられる。